

社団法人日本有機資源協会 会員各位

JORA バイオマス通信 Vol.1

(社)日本有機資源協会がお届けするバイオマスの利活用に関する最新情報です



ごあいさつ

P.2

社団法人日本有機資源協会 会長 兒玉 徹

< 今回のニューストピックス >

行事予定

P.3~P.4

- ・バイオマスタウンアドバイザーの養成研修 実地研修の実施について
- ・第50回バイオマスサロン開催のお知らせ
- ・「アグリビジネス創出フェア2009」出展のお知らせ
- ・日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2009」併催「バイオマス展2009」出展のお知らせ
- ・有機性資源循環利用グリーンフォーラム開催のお知らせ

石川県在住のバイオマスタウンアドバイザーのご紹介

P.5

株式会社モニターアドバイザーオフィス 吉村 誠 氏

「バイオマスを資源として、当たり前利用している時代が訪れること、それが私の夢です」

注目のバイオマスタウンご紹介

P.6

栃木県芳賀郡茂木町

「地域に根差した美土里堆肥は本町の農家の80%が使用」



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介

P.7

株式会社メリーズ・ジャパン

「B to BならぬB to “G”のビジネスモデルを確立」



バイオマスマーク取得企業をご紹介

P.8

阿久津樹脂工業

「木質プラスチック製品のエコデコイ“こがもちゃん”を製造」



その他

P.9

- ・バイオマスタウン構想公表情報
- ・平成21年度環境バイオマス総合対策推進事業 第1回全国会議を開催
- ・バイオマス利活用支援マスコット販売中
「バイオマスくん」に色をぬってかわいいストラップをつくらう！

JORAバイオマス通信の発信にあたり

日頃は社団法人日本有機資源協会(JORA)に対し、皆様のご協力とご支援をいただきまして厚く感謝申し上げます。特にバイオマスの利活用の推進につきましては、幅広い関係者、関心のある皆様からご理解をいただいております。重ねて御礼申し上げます。

さてこの度当協会では、バイオマス活用について有用で最新の情報を提供する「JORAバイオマス通信」を発信することとなりました。報道関係者の皆様におかれましては、是非ご活用いただくとともに、ご指導ご鞭撻を頂戴できれば幸いです。

昨今のバイオマス利活用をめぐる状況は、「バイオマス活用推進基本法」が本年9月に施行され、同9月末には地域の重要な基本プランというべき「バイオマスタウン構想」が全国で218地区と着実に増加、また来る12月にはCOP15(第15回気候変動枠組条約締結締約国会議)が開催され、新たな国際的な枠組みが検討されるなど、バイオマス利活用については新たな展開が期待できる状況にあるといえます。

当協会ではこれまで、バイオマスタウン構想の策定支援、バイオマス関連の事業化の支援、バイオマスタウンアドバイザー養成などの人材育成、バイオスマーク事業、更には、技術調査事業、普及啓発事業などに取り組んでまいりました。当協会では、この状況においてもバイオマス利活用の更なる進展を図るための前述の諸活動を着実に実施しているところですが、今回新たにこの「JORAバイオマス通信」の発行を通じて、このようなJORAの活動に関連した情報はもとより、バイオマス利活用をめぐる全般的な状況についての情報を随時発信していきたいと考えております。

バイオマス利活用という難しいという印象がありますが、例えば、バイオマスタウン、バイオスマーク商品などを例に挙げると分かるように、本来、国民の皆様にとっても大変わかりやすく親しみやすいものであります。また、バイオマスはカーボンニュートラルであり、その利活用の取り組みは地球温暖化防止に寄与するものでもあります。

加えてバイオマスの利活用は、地域の資源を有効に利用するものです。地域の活性化、地域産業の育成にも大きく寄与します。当協会ではバイオマスの利活用に対し、今後、ますます多くの国民の皆様に関心を持っていただきたいと考えております。

この「JORAバイオマス通信」により、広く国民一般の方々に情報が提供され、バイオマス利活用の大切さを認識していただき、ひいてはバイオマス利活用が着実に進展されるよう切に願っております。報道関係者皆様の多大なご理解、ご協力とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

社団法人日本有機資源協会
会長 兒玉 徹

兒玉 徹 略歴

昭和10年	滋賀県生まれ
昭和34年	東京大学農学部 卒業
昭和35年	東京大学農学部 助手
昭和49年	東京大学農学部 助教授
平成61年	東京大学農学部 教授(微生物利用学担当)
平成8年	東京大学定年退職(名誉教授) 信州大学繊維学部 教授
平成13年	信州大学 定年退官
平成17年	独立行政法人食品総合研究所 理事長
平成18年	同上 退職
平成19年	社団法人日本有機資源協会 会長



行事予定

・9月28日(月)～11月20日(金)

バイオスタウンアドバイザーの養成研修 実地研修の実施について

内容:

本協会では、地域のバイオマス利活用推進のため年に1回、バイオスタウンアドバイザーの養成研修を実施しています。養成研修は、近隣のバイオスタウン公表市町村での取組を視察した後、実地研修に協力いただいた市町村に赴き、関係者へのヒアリング、現地調査等を行い、実際にバイオスタウン構想案を作成し、これを通して実効性のある構想の策定手法等を習得してもらうものです。1市町村につき4日間

開催場所:

全国9箇所の協力地域(市町村)

本研修事業に協力いただく市町村は、全国の各市町村から公募し、選考の結果、9市町村に決定しました。なお、応募にあたっては本研修への協力に基づき、バイオスタウン構想を公表する意向がある、市町村内部の調整、実地研修場所の提供等に対応可能な担当者を配置できる、バイオスタウン構想案を作成するために必要となる資料を提供できる、などの要件を満たしていることが条件となります。

< 研修成果発表会 >

内容と目的: 研修成果(バイオスタウン構想案)を発表するとともに、関係者との議論を深める。

開催日時: 平成22年1月28日(木)13:00～19:30

開催場所: 馬事畜産会館2階大会議室(東京都中央区新川2-6-16)
尚、本養成研修は上記の研修成果発表会をもって終了いたします。

・11月25日(水)

第50回バイオマスサロン開催のお知らせ

～進展する世界のバイオマス利活用について～

開催時間: 講演及び質疑応答 / 13:15～18:00、意見交換・交流会 / 18:00～19:30

開催場所: 馬事畜産会館2F 大会議室(東京都中央区新川2-6-16)

- プログラム:
- 13:15～13:20 開会挨拶
(社)日本有機資源協会 会長 / 東京大学名誉教授 兒玉 徹 氏
 - 13:20～14:20 ヨーロッパにおけるバイオマス利活用の現状と今後の展開
(社)日本有機資源協会 副会長 / 東京大学大学院 教授 横山 伸也 氏
 - 14:20～15:10 オーストリアにおけるバイオマス利活用の現状と今後の展開
(社)日本有機資源協会 事務局幹事 / バイオスタウンアドバイザー 広瀬 祐 氏
 - 15:10～15:20 休憩
 - 15:20～16:10 韓国におけるバイオマス利活用の現状と今後の展開
ソウル産業大学 環境工学科長 裴 在根 氏
 - 16:10～17:00 (社)日本有機資源協会 理事 / (株)エックス都市研究所 取締役 鈴木 進一 氏
 - 17:00～18:00 パネルディスカッション
コーディネーター (社)日本有機資源協会 専務理事 今井 伸治 氏
パネリスト 講演者 4名



・11月25日(水)～27日(金)

「アグリビジネス創出フェア 2009」出展のお知らせ

-ここで始まる産学官連携。未来につながる技術シーズ満載！-

開催時間: 9:30～16:30
 開催場所: 幕張メッセ6ホール(千葉県千葉市美浜区中瀬2-1) 環境技術ゾーン
 内容: 「バイオマスマーク商品」が大集合! 地下資源を節約し、CO₂を増やさない生物由来の材料(バイオマス)を使用した、地球にやさしく安全な商品をご覧ください。

・12月10日(木)～12日(土)

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2009」併催

「バイオマス展 2009」出展のお知らせ

開催時間: 10:00～18:00 12日(土)は10:00～17:00
 開催場所: 東京ビッグサイト「東展示場1～6ホール」(東京都江東区有明3-11-1)
 「B01」ブースにて展示
 内容: 生物由来の資源(バイオマス)を材料とした未来型プラスチック類の展示。



・12月10日(木)

有機性資源循環利用グリーンフォーラム開催のお知らせ

開催時間: 10:15～17:15
 開催場所: 東京ビッグサイト 国際会議棟6F 605会議室(東京都江東区有明3-11-1)
 プログラム:
 10:15～10:20 開会挨拶
 (社)日本有機資源協会 会長/東京大学名誉教授 兒玉 徹 氏
 10:20～11:00 我が国におけるバイオマス利活用の現状(仮題)
 農林水産省ご担当者様
 11:00～11:30 JORA 技術委員会の新たな活動展開(仮題)
 (社)日本有機資源協会 副会長/技術委員会委員長 牛久保 明邦 氏
 11:30～12:10 JORA バイオマス利活用事業データベースの構築と活用(仮題)
 バイオマスタウン技術専門委員会 委員長/東京大学大学院 農学生命科学研究科
 准教授 芋生 憲司 氏
 13:00～13:40 持続可能なバイオ燃料に関する国内外の取り組み(仮題)
 海外バイオマス技術専門委員会 委員長/東京大学大学院 農学生命科学研究科
 教授 五十嵐 泰夫 氏
 13:40～14:20 バイオマスを原料とした新たな液体燃料製造技術の開発(仮題)
 新技術開発専門委員会 第一部会 委員長/(社)日本有機資源協会 理事/
 筑波大学 名誉教授 前川 孝昭 氏
 14:20～15:00 良質な液肥とエネルギー生産のためのバイオガス化技術(仮題)
 新技術開発専門委員会 第二部 委員長/(社)日本有機資源協会 理事/
 東北大学 名誉教授 野池 達也 氏
 15:00～15:10 休憩
 15:10～15:50 全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会の取組報告
 全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会
 15:50～16:30 最近のバイオマス製品について(仮題)
 日本バイオマス製品推進協議会 会長/(社)日本有機資源協会 理事/
 北海道大学大学院 教授 木村 俊範 氏
 16:30～17:10 リン資源リサイクルの実現のために
 -リン資源リサイクル推進協議会の役割-(仮題)
 リン資源リサイクル推進協議会
 17:10～17:15 閉会挨拶
 (社)日本有機資源協会 専務理事 今井 伸治 氏



石川県在住のバイオスタウンアドバイザーのご紹介 株式会社モニターアドバイザーオフィス 吉村 誠 氏

略歴

昭和33年生まれ

昭和56年 芝浦工業大学 卒業

昭和56年 設備工事会社入社、現場監督等、エネルギーセンター建設関連に従事。後にエネルギー管理員として、省エネ対策提案、新エネ提案業務に従事する。

平成18年10月 バイオスタウン構想「三重県伊賀市」策定
～平成19年1月

平成19年 バイオスタウンアドバイザー取得

平成19年 株式会社モニターアドバイザーオフィス設立

平成19年 農水省「北陸バイオマス発見・活用促進事業」、「環境バイオマス総合対策推進事業」に参画

平成21年現在 バイオスタウン構想「石川県能登町」策定中

手掛けたバイオスタウン構想案件： 三重県伊賀市策定、石川県能登町策定中

バイオスタウンアドバイザーになったきっかけ：

今後、日本において次世代に限られた資源を残すには、省エネ、新エネの取り組みが必要と感じました。また、自給できる資源やエネルギーは何かと考えた時、バイオマスの存在を大きく感じたのがきっかけです。各地方自治体では使われていないバイオマスの利用に際し、種類や量が地域によってバラツキがあるため、地域に応じた利用方法などが必要と感じました。市町村等での利用状況等を見ると、かなりの温度差があり、専門のアドバイザーになれないかと考えている時に、日本有機資源協会様のバイオスタウンアドバイザー研修のお話を聞き、受講いたしました。

現在の仕事について：

バイオマスは生き物です。バイオマス利用などに関しては、常に新しい情報やアイデアが必要となり、そのため常に勉強することが重要です。新しい発見や驚き、そして多方面の方々との協力が必須であり、その中で新しい出会いが生まれることは仕事をする上で大変やりがいになります。一方、新しい取り組みに対して、情報不足や財政上の問題等もあり、なかなか理解をしていただけない関係者等の説得方法がなかなか見いだせない時や、また関係各所のご担当者が3年後に変わる可能性があり、地域の有力者に協力を求めなければならない時は大変苦労しました。バイオスタウンアドバイザーとして、全てのバイオマスが“ゴミ”としての形ではなく、日本の大事な資源として、社会全体が当たり前利用している時代が訪れることが私の夢です。

出前授業、イベントの参加などの実績について：

小学校、中学校での出前講座、ツアー引率 / 石川県の環境関連団体などへの出前講座 / 福井県の森林組合連合会、市町村などへの出前講座 / 富山県の自治労関連団体などへの出前講座

各地で活動しているバイオスタウンアドバイザーに向けてメッセージ：

バイオマス利用は地域振興のための重要な取り組みであることへ多くの方々にご理解いただくこと。また、地域で草の根活動している方々にスポットをあてることが重要です。バイオマスは生き物であり、人と生き物(有機性資源)を繋ぐ重要な役割であることを理解することが大切になります。バイオマスの利活用は次世代の将来のために重要な取り組みであることを地域の皆様に伝えてほしいと思います。

バイオスタウンアドバイザーの役割：

地方公共団体等からの要請を受け、以下のような支援を行います。

地方公共団体が策定するバイオスタウン構築を支援

地域のバイオマス関連の事業化を支援

地域におけるバイオマス利活用の普及を支援(シンポジウム等の講師、資料作成など)



バイオマスくん
©ochappi/SPiRITS



バイオマスくん
©ochappi/SPiRITS



注目のバイオマスタウンご紹介 ～栃木県芳賀郡茂木町～編

役場所在地： 栃木県芳賀郡茂木町大字茂木 155 番地
TEL:0285-63-1111 FAX:0285-63-0459
役場URL: <http://www.town.motegi.tochigi.jp/>
人口: 15,305人(男性7,496人、女性7,809人、4,945世帯/平成21年9月1日現在)

茂木町について： 茂木町は、栃木県の東南部に位置し、北部を関東随一の清流那珂川が山肌をえぐるように蛇行している。栃木県の景勝百選に選ばれた鎌倉山の山頂からのダイナミックな眺望や全国棚田百選に選ばれた「石畑の棚田」をはじめとした農村景観が来町する人々の心をなごませている。また、市街地はかつての城下町としての面影を残し、歴史を伝えつつ特有の文化をつくり上げてきた。面積の7割を八溝山系の山々に抱かれた自然豊かな町である。

<バイオマスの利活用について>

対象バイオマス： 牛糞、生ごみ、落ち葉、もみがら、おがこなど
成果物： 堆肥(美土里堆肥)、など
利活用施設： 有機物リサイクルセンター美土里館、など
事業実施主体： 茂木町
利活用の状況： 茂木町は平成15年4月に「有機物リサイクルセンター美土里館」を立ち上げ、生ごみ、牛糞、落ち葉、おがこ、もみ殻などの地域資源を堆肥としてリサイクルし、「環境保全型農業の推進」「ごみのリサイクルの推進」「森林保全」「農産物の地産地消体制の確立」を目的とした取組を総括的に推進している。地域資源を独自の収集システムにより、町ぐるみで回収しているのが大きな特徴で、良質な堆肥づくりには地域資源の特性をいかした発酵技術が取り入れられている。具体的には、発酵に必要な微生物は、落ち葉についている土着菌を利用し、水分調整剤はおがこ、エアレーションによる通気性の確保や空気の保管庫としてもみ殻を使い、微生物の栄養源として、生ごみや牛糞を使い攪拌することによって上手く発酵させることができる点などである。発酵に105日かけ、出来た堆肥は黒く無臭、サラサラな点が好評で、年間の堆肥製造量は1,500トンで本町の農家の80%が「美土里堆肥」を使用している。



「美土里堆肥」を使って栽培された、野菜やお米は学校給食に使われている。

また、里山の恵みを栄養にして育った「美土里堆肥」栽培農産物は、道の駅で販売され、安全、おいしい、しかも環境貢献野菜として消費者によるこぼれている。

茂木町環境課 課長

矢野健司 氏のお話： 地域資源であるバイオマスは中山間地の農村部には沢山あり、それぞれ特長があります。その地域資源を町ぐるみで探し、特長を活かし利用できるように変換するなど、町ぐるみで取り組んだとき、地域に眠っていたバイオマスは地域の宝になるのです。茂木町は、美土里館を核として地域資源を堆肥にしていますが、「森を元気に、農家を元気に、そして、町を元気にする」を合言葉にバイオマス利活用を町ぐるみで推進しています。今後は、廃食用油をリサイクルするためのBDFプラントや木質バイオマスからの燃料製造など更なる地域資源の循環を進めていく予定です。



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介

企業概要

社名: 株式会社メリーズ・ジャパン
 住所: 〒270-2214
 千葉県松戸市松飛台 404-1 駒井鉄工(株)テクニカルセンター内
 TEL: 047-386-5600
 URL: http://www.merrys-j.jp
 事業内容: 食品残さ発酵分解装置の製造・販売・レンタルを主な業務。食品残さのリサイクルループの構築
 資本金: 3000万円



多良木町消防団詰所 50kg タイプ

代表取締役社長 松尾 康志 氏のメッセージ:

当社は、循環型社会構築に寄与するため、北九州市で研究・開発を行ってきた地域内循環リサイクルシステム「メリーズシステム」を全国に広げていこうと平成 19 年に設立いたしました。取引先は地方自治体で、地域内循環のリサイクルループを構築するサービスを展開しています。メリーズシステムとは、地方自治体に食品残さ発酵分解装置をリースし、地域内で消費、分解するリサイクルループをハードとソフトの両面でご提供するものです。現在、9 件の自治体で導入され、その他、飲食店やスーパーなどにも実績があります。当初、我々は装置を製造・販売する仕事でしたが、「世の中のニーズ、お客様のニーズ」を考えた時に循環の仕組み作りの必要性を肌で感じました。そのため装置については「あくまで方法論であり、目的ではない」という考えから、レンタル事業を追加し、高額な設備投資をしなくてもお客様が参加しやすい循環の仕組み作りを構築させたことが、大きな転換期でありました。以降、積極的に導入を検討する自治体と協議を重ね、バイオマス・ニッポン総合戦略の中にあるバイオマスタウンの政策にも合致し、自治体を受け入れやすい仕組みを共同で作り上げており、B to B ならぬ B to “G” のビジネスモデルを確立してきました。おかげさまで経済産業省が認定するハイサービス 300 選にも選ばれました。今後は、こうした循環型の新しい社会システムの構築を当社でサポートすることで地球にやさしいシステム作りの輪が広がればと思っております。

メリーズシステムについて:

地域内で発生した食品残さを利用した地域内での循環型リサイクルシステムです。地域で発生した生ゴミを微生物等の力により原料を一次発酵させ、二次、三次発酵(年に 2 回発酵分解床を回収し、当社リサイクルセンターに運搬)の工程を経て「たい肥」させます。完成した「たい肥」は地域の農家に販売し、地域におけるモノ、お金の循環を構築、従来捨てていたバイオマスを地域内で循環させる仕組みをハード、ソフトの両面で提供するものです。バイオマスの回収率が 50%でも成立するような自治体が取組みやすい仕組みを考え、ご提案いたします。

メリーズシステムの導入事例: < 熊本県球磨郡多良木町 >



多良木町武道館 300kg タイプ

多良木町では、2009年8月より「生ゴミステーション」を町内3箇所で展開しています。食品残さ発酵分解装置を設置し、家庭や事業所から発生する生ゴミの資源化に取り組んでいます。生ゴミを持参した「地域内循環の仕組み」をご理解いただき地域の方々に会員ポイントカードを配布。生ゴミを1回持参することでスタンプ(1ポイント)を付与。押印を50ポイント貯めると地域内通貨500円と交換。地域内通貨は、多良木町内の商店街、飲食店や温泉等で使用できます。また、生ゴミ処理場では地域住民のコミュニティ場としても活用されています。

同ステーションでは、生ゴミの減少や CO2 削減を毎日リアルタイムで見ることができるバックボードを設置し、地域の方々の取組みの成果が1回でわかるようにしています。

代表取締役社長: 松尾 康志(まつお やすし)

略歴

昭和 34 年 福岡県生まれ
 昭和 52 年 3 月 福岡県立東筑高等学校卒業
 昭和 56 年 3 月 同志社大学商学部卒業
 昭和 56 年 4 月 ~ 平成 11 年 11 月 株式会社黒崎そごう勤務
 平成 12 年 2 月 ~ 平成 13 年 6 月 株式会社ジャパンケミカル環境事業部長
 平成 13 年 6 月 ~ 楽しい株式会社 代表取締役就任 現在に至る
 平成 16 年 2 月 ~ 有限会社プレリウド 代表取締役就任 現在に至る
 平成 19 年 4 月 株式会社メリーズ・ジャパン設立、代表取締役就任



バイオスマーク取得企業をご紹介 ～阿久津樹脂工業～ 編

社名： 阿久津樹脂工業
 住所： 〒341-0035 埼玉県三郷市鷹野 1-354
 事業内容： 環境に配慮した原料であるバイオマスプラスチックやリサイクルPPを用いたプラスチック製品の製造
 取得製品： エコデコイ「こがもちゃん」
 取得時期： 2008年7月
 語る人： 阿久津義広さん



エコデコイ「こがもちゃん」について：

エコデコイ「こがもちゃん」は2008年3月に材料供給メーカー倭和テクノス、千葉県立中央博物館、千葉県バイオマスプロジェクトチーム、そして千葉県産業支援研究所の協力により製造した製品です。現在、環境関連のイベントや公共施設などでの利用を進めています。自然のカモはいろいろな種類があり、デコイ(模型)を作ったらいろいろな色を塗って楽しめるので、自然環境保護やバイオマスを身近に知ってもらえる教材にはぴったりでした。その年の6月には洞爺湖サミット記念環境総合展2008の日本政府ブースでエコデコイがバイオマス学習用教材として採用され、さらに12月にはエコプロダクツ2008の日本有機資源協会様のブースでも採用されるなど、各方面からご好評をいただいています。

バイオスマーク取得の理由：

企業や一般の方に対し、エコデコイをはじめとする木質プラスチック製品を環境に配慮した製品としてアピールするため、バイオスマークを取得することで信頼性を獲得したいと考えました。

バイオマスプラスチック製品について：

千葉県山武市の倭和テクノスよりプラスチック成形材料を見せてもらい、独特な「質感」や「香り」にとっても驚きました。ちょうど従来品以外に新しいことをやってみたいと思っていたところで、地球温暖化防止にも貢献できるこの素材を生かして、なにか作れないか、と考えたのがきっかけです。

木質プラスチックは、木粉や食物加工残さなどとポリプロピレンを混ぜて作りますが、その混合条件により流動性が変化します。このため金型の形状によって条件(成形条件)を大きく変える必要があり、試行錯誤の上、2007年6月頃に製品化のメドがたちました。

木質プラスチックの特徴：

木質プラスチックは素材の原料となる木の種類により、違った色合いや香りを持っており、また木とプラスチックの両方の特性を持っています。たとえば竹を素材の原料にすれば竹の香りが、コーヒー豆の殻を使えばコーヒーの香りがする製品が出来上がります。また成形品ですが、出来上がりは1つ1つが違う表情を持っていますし、木のような吸湿性もあります。もちろんこれまで廃棄されていたバイオマス資源を原料とするため地球温暖化防止にも貢献でき、ライフサイクルアセスメント(LCA)の研究では千葉県産のサンプスギを60%原料に使用した製品は従来品に比べCO₂の排出量を約50%低減できるとの評価結果もいただいています。

製品開発について：

試行錯誤の結果、木質プラスチックは通常のプラスチックでは難しい肉厚の製品に向いていることがわかりました。製品のひけ(へこみ)が少ないのも利点のひとつです。また、木質プラスチックでは従来のプラスチックより若干、強度が不足している面も有り、商品の設計時にはそのところを考慮して、専用の金型を製作する必要があります。

その他の製品について：

今後の展開としては、国内に存在する有効な有機性資源をプラスチック化して、木製品では困難な形状の製品を量産化を図りたいと考えています。弊社ではエコデコイシリーズの他、神社絵馬、ペンケース、ネームペンダント、カードスタンドなどもあります。本年11月には、バードブローチの製作を予定しています。木質プラスチックは現在、千葉県産のサンプスギのおが粉または樹皮、竹、松やコーヒー豆の殻、新潟県産の広葉樹やもみがらなどを使用しておりますが、技術的にはどんな原料からでもつくることができます。地域にちなんだ素材にこだわれば地産地消にも貢献できます。

最近、「木質プラスチックでこんなものはつくれないか?」という問い合わせが多くなってきており、バイオマスが注目されていることを実感します。今後はエコデコイのシリーズ化や、めがねケース、はし、はんこ入れ、車の車内アクセサリなどの製品化を検討していますが、「色合い」や「香り」など、木質プラスチックならではの素材を生かした面白い製品を作ることで地球温暖化防止に役立てられたらうれしいですね。



その他

バイオマスタウン構想公表情報

新規公表(平成 21 年 9 月末、第 37 回公表):和歌山県北山村(きたやまむら)

北山村は、森林率 94%という地 域特性を活かし、林地残材等の木質系バイオマスのエネルギー利用を進めるとともに、地域の主要産物であるじゃばらの搾りかす等の食品残さや生ごみの飼料化を図り、農林業や観光等の地域産業の活性化に結びつく、北山村独自の地域循環型社会の形成を目指す。

改定公表(平成 21 年 9 月末、第 37 回公表):青森県中泊町(なかどまりまち)

中泊町は、豊富な森林資源、稲わら、もみ殻を原料に、炭化やペレットの製造施設を設置しペレットストーブ等の熱源とし利用する他、民間活力により液体バイオ燃料製造を行い、農業施設等の暖房燃料、農業機械及び町公用車、一般家庭、農家の燃料として利用する。また、転作田等にBDFの原料となる資源作物の栽培を推進する。

平成 21 年度環境バイオマス総合対策推進事業 第 1 回全国会議を開催

農林水産省からの補助事業である「平成 21 年度 環境バイオマス総合対策推進事業のうち全国規模での環境バイオマスに関する意識改革(全国普及・啓発)」の事業推進にあたり、本年度第 1 回目の全国会議を開催いたしました。

この全国会議は、全国 9 地域(北海道地域、東北地域、関東地域、北陸地域、東海地域、近畿地域、中国四国地域、九州地域、沖縄地域)の地域調査事業実施者 27 名と、各地方農政局担当者等 13 名、及び農林水産省より 2 名が出席し、農林漁業者、消費者、事業者等の地域関係者にバイオマスの利活用に関する意識改革を促し、全国規模での国産バイオ燃料の拡大、バイオマスタウン構築の加速化を図ることを目的として開催いたしました。

第 1 回の今回は本年の各地域における事業連携のためのスケジュール確認と各地域事業者からの前年度の活動報告がなされ、これを踏まえ本年度の活動目標を審議、採決して終了いたしました。



7月24日(金)馬事畜産会館にて

尚、第 2 回は本年 11 月末、第 3 回は来年 3 月にいずれも都内で開催する予定です。

バイオマス利活用支援マスコット販売中

「バイオマスくん」に色をぬってかわいいストラップをつくろう!



リーフレット
バイオマスくん
ストラップ

この「バイオマスくん」ストラップは、間伐材などを原料とする木粉プラスチックを使用しており、その自然な「木の質感」や「香り」が特徴です。石油由来のプラスチックに比べて、二酸化炭素の排出量をほぼ半減できる、地球温暖化防止に貢献するエコ製品です。環境学習の教材としてもご利用下さい。

バイオマスくん プラ袋入り(リーフレット・ストラップ付き)

価格(税込み):175 円(おが粉、樹皮、竹)

< 本件に関するお問い合わせ先 >

社団法人日本有機資源協会 嶋本 浩治

〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 401

TEL: 03-3297-5618 / FAX: 03-3297-5619 / E-mail: shimamoto@jora.jp

URL: <http://www.jora.jp>

共同 PR 株式会社 牧 安彦、林 健志

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

TEL: 03-3571-5365 / FAX: 03-3569-0862

